

# ひよ



## 熱い想いを感じながら 40キロ

### 武左衛門一揆の道

晴天の十月七日、十七年ぶりに「日吉一希を起こす会」が日吉から宇和島を目指して歩く『一揆の道』を開催しました。

この日の参加者は七十三名、朝七時二十分に出発し、三島地区で広見川夢の会から美味しいうどんを、中央公民館前では日吉小学校の武左衛門太鼓の演奏で力してもらい、ほぼ全員の方が予定どおり夕方五時に八幡河原に着きました。

歩ききった参加者は、疲れた中にも達成感一杯に全員での記念写真に笑顔で納まりました。

↑①写真 P2へ続く

※日吉住民センターに写真を掲示しています。

《アルバム 一揆の道》



【史跡紹介も熱心に】(上大野)



【氣勢をあげて出発ター】(下鍵山)



【横断歩道は手を上げて】(小倉)



【温かいうどんで一休み】(小松)



【嬉しいたいこまんの差入れ】(高光)



【弁当と武左衛門太鼓】(近永)

「皆さんお疲れ様でした。」



【やったー到着 感想を寄せ書きに】  
(八幡神社)



【予土線に乗りたいな〜】(務田)

走った滑った転んだ  
記憶に残ったどろんどろん運動会！

日吉小中学校で九月十六日「日吉っ子合同運動会」が、台風の影響で朝から雨となりましたが、種目順を変更しながら開催されました。



精一杯に演技し、特に小学校高学年の組体操でピラミッドが完成した瞬間には、会場が感動に包まれました。

その後「小学生の体操服が真っ黒なのに中学生が真っ白じゃいかんでしよう。」と名物競技の小綱引きが行われ、引いたり引かれたり転んだり、中学生の体操服もどろんこになりました。

残念ながら午前中で終了となりましたが、児童・生徒、先生方、会場に訪れた全員の記憶に残る運動会となりました。



☆☆☆☆☆☆  
星☆☆☆☆です  
日曜パパごはん教室

「日曜日の食卓に、お父さんの手料理を並べよう。」と、九月九日に七人の男性が参加して料理教室を開きました。

指導は、伊勢本友和さん（下鍵山）で、この日のメニューは、「チキンソテー」・「夏野菜のトマトパスタ」・「ジャガイモのグラタン」の三種類でした。皆さん採れたて野菜の切り方から味付けまで、熱心に指導を聞いて、時間内に調理し自宅に持って帰りました。家族の皆さんお味はいかがでしたでしょうか？



# 読書の秋

読んでみませんか？

公民館図書室にある本を紹介いたします。



## かすていら

さだまさし

父に捧ぐ。作家さだまさし、初の自伝的実名小説。僕と親父の一番長い日。



## ルーズヴェルトゲーム

池井戸 潤

会社存亡の危機 廃部寸前から社員の夢が詰まっているチームが見せる「奇跡の逆転劇」



## 阪急電車

有川 浩

恋の始まり、別れの兆し、そして途中下車……片道わずか15分、えんじ色の車両が走る今津線を主人公とした物語。



## ナミヤ雑貨店の奇蹟

東野 圭吾

あらゆる悩みの相談に乗る、不思議な雑貨店。しかしその正体は……。



## はげましてはげまされて

竹浪 正造

93歳正造じいちゃん、56年間のまんが絵日記。



## 舟を編む

三浦 しをん

2012年本屋大賞第一位！辞書作りに情熱をかける主人公達。言葉の海に魅せられる人びと続出！



## 置かれた場所で咲きなさい

渡辺 和子

置かれたところこそが、今のあなたの居場所です。どんな状況の中でも「咲く」努力をしてほしい。



## くちびるに歌を

中田 永一

拝啓、15年後の私へ 全国コンクールを目指す五島列島の合唱部とその家族の物語。

# 『小中一貫教育』を目指して

児童生徒数の減少する日吉地区において、これからの小中学校の方向性について、日吉小学校 上田敏彦校長先生、日吉中学校 西村久仁夫校長先生に聞きました。

これまで、日吉小・中学校では、「日吉つ子合同運動会」、「日吉地区児童生徒をまもり育てる協議会」、「地区別教育懇談会」など様々な小中連携の中で、保護者や地域の方々に支えられながら、児童生徒の健全育成や地域に根ざした教育の推進を図ってきました。その成果として、学力面や人間性、スポーツ・体力面においてバランスの取れた児童生徒が育ってきていると考えています。ところが、近年児童生徒数の減少が進む中で、現在の教育水準の維持・向上を図るための取組を充実させていくことが、差し迫った重要な課題となってきました。

そこで、これまで日吉小・中学校で行ってきた「小中連携」をさらに発展・充実させた『小中一貫教育』を導入したいと考えています。小中一貫教育とは、新しい特別な教育システムではなく小・中学校が協力して、義務教育9年間を見通した一貫

した指導方針をもちながら、児童生徒を育てていくというものです。既に全国各地の小中学校で実践され、その成果も評価され、文部科学省もその導入を押し進めているところです。日吉小学校と日吉中学校は、校舎が同じ敷地にあり、一つの小学校と一つの中学校が同一の校区で構成されているという、小中一貫教育を進める上での絶好の教育環境にあります。

**具体的には、先進校の効果的な取組を参考にして、平成25年度から次のようなことができるのではないかと考えています。**

- (1) 小学校と中学校が同じ教育目標の下で教育活動を行います。
- (2) 小1から中3までの一貫教育として、新しい教科「郷土学」(仮称)の授業を行います。
- (3) 小・中学校が合同で行う教育活動が運動会だけでなく、これまでに以上に多くなります。

- (4) 今年度は、小学校の外国語活動に中学校の教員が協力していますが、来年度からはいくつかの教科でも、小中の教員が互いに協力して授業を行う【乗り入れ指導】を行います。
- (5) 学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)や学校支援地域ボランティア制度を導入し、地域の皆さんとの連携もこれまでに以上に図ります。

**このような小中一貫教育を実践することで、次のような教育効果が見込まれます。**

- ① 児童生徒一人一人に対応したきめ細かな指導を行うことで、『**確かな学力の定着・向上**』が期待できます。
- ② 幅広い異学年での集団活動で、「中学生への憧れ」、「小学生への思いやりの心」が育ち、『**豊かな人間性**』が育まれます。
- ③ 中学校入学にうまく適応できない際に生じる『**中一ギャップの解消**』が見込まれます。
- ④ 社会教育活動のスポーツ少年団と中学校での部活動のスムーズな連携が可能となり、運動を通した『**健康と体力向上**』が期待できます。



◎このような構想を目指してありますが、保護者・地域の皆さんには、不安・疑問も数多く出てくると思います。学校では、様々な角度から検討・協議を重ねて、より良い一貫教育の導入を図りたいと考えています。今後とも御支援・御協力をお願いいたしますとともに、御質問・御意見を学校までいただけるとうれしいです。

# 保健師の行く道

「二宮恒夫先生講演会」  
盛大に開催！



九月十四日に、日吉保健センターで、

「人生の経験と知恵を若者に語り継ごうー現代の心の問題を救うのは知識ではなく、人生の経験と知恵ー」

と、題して日吉出身の徳島大学医学部の二宮恒夫教授にご講演をいただきました。会場は、二宮先生の同級生を始め、多くの方にご参加いただきました。現代の子供を取り巻く環境で、虐待や不登校・引きこもりなどの数を上げ、二宮先生が小児科で白

血病専門からなぜ、子供の心の問題に取り組まれたかをお話されました。病気を治すだけではなく、心の成長に寄り添うことの重要性を感じ今の問題に取り組まれたそうです。

虐待を受けている子はみなダメな子と言われ自信を無くしている。また虐待をする親は虐待をされて育てられていることが多く、その虐待を予防するには妊娠出産期からの取り組みが必要である。また、子育てしている子供や孫に、助言するときには、まずねぎらいの言葉をかけることが大事であること。さりげないほめ言葉の後に、経験や知恵を伝えるといいのではないかと、ユーモアを交えながら話されました。

今回は子育て期は終わって、孫育ての年代の方が多かったのですが、みな熱心に耳を傾けられていました。また、日吉出身の先生ということと、ご両親やおばあさん

のお話も、みな知っているの楽しく拝聴できました。

私も二宮先生の大人を対象

としての講演は初めて聞かせて頂きましたが、このように時代の先駆者的に子供の問題に関わっている先生がいらつしやることを知って誇りに思いました。昨年の日吉中学生への講演では子供たちに

「日吉中学生としての誇りを持って頑張れとのエールを、今回は私たち住民に、その子供たちをみんな育て、地域のつながりを大事に生活して欲しい。」と、言われ、

自分もまだまだ頑張るのでお互い頑張りましょうとの言葉をいただいたように思いました。

いつかまた、機会がありましたら多くの方に二宮先生のお話を聞いてもらいたいと思えました。⑩の写真は、講演中の二宮先生



## ● 第四回 日吉歩こう会

十一月十五日(木)

場所 成川溪谷

申込み 十一月一日から

日吉公民館で受付け

## 編集後記

一揆の道参加者の方々、脚が痛そうでしたが、最後まで頑張って歩かれました。そして、主催の日吉一希を起こす会の皆さん、打合せ、準備、当日のお世話と長い期間たいへんお疲れ様でした。

発行者 日吉公民館 発行日 平成24年10月25日 住所 鬼北町大字下鍵山四六三 電話 0895-44-2211 fax 0895-44-2870